



森安町長にインタビュー

今回の虫めがねは、伯耆町長就任五ヶ月目の森安町長を広報委員全員で取材しました。その概要を紹介します。

質 問 このコーナーは普段紹介されにくい問題を取り上げていますので、ご協力ください。いきなりですが、町長のイスの座り心地はいかがですか。

森安町長 あまり座っていません。町民との距離を縮めるため、意識して現場に出かけています。

町政に関心を持ってもらうには受身ではだめです。パートナー職員の充実や、住民参画の制度化を視野に入れ、住民アンケートを考えています。それやこれやで、すぐく時間が経った気がします。

質 問 町づくりは、こうあるべき、という考えがありますか。

森安町長 住民本意をもとに選択肢をいくつももっておく必要がありますが、国内情勢の変化が激しく先が読めません。どんな町づくりが良いかは決断するのではなく、町民に押し付けにならないよう判断していきます。

質 問 三月定例会を終え、議会のイメージはどうですか。

森安町長 活発な議会で安心しました。立法府としての条例等、政策立案の議会事務局のサポート体制が不十分だと思います。



質 問 四年後の伯耆町は、どうなっていると思いますか。

森安町長 むずかしいです。電気自動車が発売されますが、部品数が1/2になり、部品会社も1/3になります。製造業中心の日本は産業構造が、がらっと変わり、それが本町にどんな影響を与えるかわかりません。それと、本町の高齢化率は三十五%です。年金等、今の人は約束されていますが、若い人がどうなるか心配です。町民がどこまで我慢するか見極めが必要だと思います。

委員全員 ご協力、ありがとうございました。

(二〇〇九年六月十日取材)



編集後記

今回の「議会だより」は、議員の改選に伴い一ヶ月遅れの発行となるため、三月議会中心の内容と、「議会の虫めがね」の文面に時差があります。すことをご了承願います。

本号から二年間、新しい広報委員構成により「議会だより」の編集にあたることになりました。議会が独自に編集できる唯一の刊行物として、町政課題の情報源、そして議会の通信簿として、町民の皆さんに親しまれる紙面づくりに努めてまいります。今後とも、ご愛読いただきますようお願いいたします。

(大森 英一)

【編集】

議会広報特別委員会

- 委員長 大森 英一
- 副委員長 渡部 勇
- 委員 福田千富美
- 委員 幸本 元
- 委員 勝部 俊徳
- 委員 篠原 天

「議会だより」に対するご意見をお待ちしております。

